

東シナ海開戦6

イージスの盾

大石英司

Eiji Oishi

C★NOVELS

口絵・挿画 安田忠幸

目次

プロローグ	13
第一章 ワンサイド・ゲーム	20
第二章 神様の方程式	40
第三章 東京湾クルーズ	67
第四章 稜線攻略	92
第五章 ウォーゲーム	119
第六章 陰謀のセオリー	145
第七章 尖閣沖航空戦	172
第八章 ネイビー・シールズ	195
エピローグ	214

登場人物紹介

日本

〈特殊部隊サイレント・コア〉

どもんこうへい
土門康平 陸将補。水陸機動団長。出世したが、元上司と同僚の行動に振り回されている。

〔原田小隊〕

はらたたくみ
原田拓海 一尉。陸海空三部隊を渡り歩き、土門に一本釣りされ入隊した。今回、記憶が無いまま結婚していた。

はたけともゆき
畑友之 曹長。分隊長。冬戦教からの復帰組。コードネーム：ファーム。

たかやまけん
高山健 一曹。分隊長。西方普連からの復帰組。コードネーム：ヘルスケア。

おおしろまさひこ
大城雅彦 一曹。土門の片腕としての活躍。コードネーム：キャッスル。

まさだ はるお
待田晴郎 一曹。地図読みのプロ。コードネーム：ガル。

たぐちしんた
田口芯太 二曹。部隊随一の狙撃手。コードネーム：リザード。

ひがひろみ
比嘉博実 三曹。ドンパチ好きのオキナワン。田口の「相方」を自称。コードネーム：ヤンバル。

あづまだい き
吾妻大樹 三曹。山登りが人生だという。コードネーム：アイガー。

〔姜小隊〕

かんあやか
姜彩夏 三佐。元は韓国陸軍参謀本部作戦二課に所属。司馬に目をつけられ、日本人と結婚したことで部隊にひっぱられた。

うるしげらたけとみ
漆原武富 曹長。司馬小隊ナンバー2。コードネーム：バレル。

ふくとめだん
福留弾 一曹。分隊長。鹿児島県出身で、部隊のまとめ役。コードネーム：チェスト。

い い かける
井伊翔 一曹。高専出身で部隊のシステム屋。コードネーム：リベット。

みずの ともお
水野智雄 一曹。元体育学校出身のオリンピック強化選手。コードネーム：フィッシュ。

にしかわしんすけ
西川新介 二曹。種子島出身で、もとは西方普連所属。コードネーム：トッピー。

みどうそうま
御堂走馬 二曹。元マラソン・ランナー。コードネーム：シューズ。

あねこうじきねあつ
姉小路実篤 二曹。父親はロシア関係のビジネス界の巨頭。コードネーム：ボーンズ。

かわにしまさふみ
川西雅文 三曹。元Jリーガー。コードネーム：キック。

ゆらしんじ
由良慎司 三曹。西部普連から引き抜かれた狙撃兵。コードネーム：ニードル。

おだぎりしょう
小田桐将 三曹。タガログ語を話せる。コードネーム：ベビーフェイス。

あびるあきら
阿比留憲 三曹。対馬出身。西方普連から修業にきた。コードネーム：ダック。

あかばねたくま
赤羽拓真 三曹。フィールドでのゲテモノ食いに長ける。コードネーム：シェフ。

〔訓練小隊〕

あまりひろし
甘利宏 一曹。元は海自のメディック。生徒隊時代の原田の同期。訓練小隊を率いる。コードネーム：フアラライ。

〔民間軍事会社〕

おとなしせいじ
音無誠次 土門の元上司。自衛隊退役者からなる民間軍事会社の顧問。^{P M S C}「ヘブン・オン・アース」内に滞在していた。

にしなゆきお
西銘悠紀夫 元二佐。魚釣島警備計画甲2、の指揮をとる。台湾軍のパイロット救出作戦中に解放軍と交戦し、死亡。

あかいしとみひこ
赤石富彦 元三佐。

こぐれりゆうじ
木暮龍慈 元一曹。狙撃手。二〇年前に引退し、北海道でマタギとして暮らしていた。

〔水陸機動団〕

しばひかる
司馬光 一佐。水陸機動団教官。引き取って育てた娘に店をもたせるため、台湾にいたが……。

〈航空自衛隊〉

まるやまたくみ
丸山琢己 空将。航空総隊司令官。

ながせゆたか
永瀬豊 二佐。原田が所沢の防衛医大付属病院で世話になった医師。防衛医大卒で陸上自衛隊のレンジャー・バッジを持っている変わり者。

みやけたかとし
三宅隆敏 三佐。予備自衛官。五藤彬の恩師。

(総隊司令部)

はぶみねみつ
羽布峯光 一佐。総隊司令部運用課別班班長。

きたがわ えいこ
喜多川・キャサリン・瑛子 二佐。情報将校。横田出身で、父親はイラクで戦死したアメリカの空軍将校。

しんじょうあい
新庄藍 一尉。父親は防府の鬼教官だった。TACネーム：ウィッチ。

(警戒航空団)

とがわけいこ
戸河啓子 二佐。飛行警戒管制群副司令。ウイングマークをもつ。

(第六〇二飛行隊)

うちむらいたいじ
内村泰治 三佐。第六〇二飛行隊副隊長。イーグル・ドライバー上がり。

〈海上自衛隊〉

きんえきまさあき
佐伯昌明 元海上幕僚長。太平洋相互協力信頼醸成措置会議の、日本側代表団を率いていたが、バイオ・テロによる感染症で死亡。

かわはた たか
河畑由孝 海将補。第一航空群司令。

しもぞのしげき
下園茂喜 一佐。首席幕僚。

いせざきたもつ
伊勢崎将 一佐。第一航空隊司令。

(第一護衛隊群)

くにしほしゆんじ
國島俊治 海将補。第一護衛隊群司令。

うめはらとくひろ
梅原徳宏 一佐。首席幕僚。

(航空集団)

ひのうえごうたい
樋上幸太 二佐。P-1乗り。前職は鹿屋の第一航空隊幕僚。航空隊総司令部のエイビス・ルームに参加。

〈外務省〉

くじょうひろし
九条寛 外務省・総合外交政策局・安全保障政策課係長。〃ヘブン・オン・アース、日本側の事務方トップ。

〈防衛省〉

[陸幕防衛部]

たけよしのり
竹義則 二佐。航空隊総司令部のエイビス・ルームに参加。

[海幕防衛部]

ふくはらくにひこ
福原邦彦 二佐。海幕防衛部装備体系課付き。前職は護衛艦の艦長。航空隊総司令部のエイビス・ルームに参加。

〔豪華客船 “ヘブン・オン・アース。”〕

ガリーナ・カサロヴァ “ヘブン・オン・アース”の船医。五ヶ国語を喋るブルガリア人女性。

ごとうあきら
五藤彬 “ヘブン・オン・アース”の船医。感染症学が専門の研究者。

これえだひゅうま
是枝飛雄馬 プロオケを目指していた青年。プロオケの先輩から誘われ、“ヘブン・オン・アース”に乗り込んだ。

なみかわえみこ
浪川恵美子 是枝が思いを寄せるピオラ奏者。音楽教師を三年で辞めて、奏者に復帰した。

ナジブ・ハリーフア ハリーフア&ハイガー・カンパニーのCEO。
豪華客船内のバイオ・テロの首謀者。

//// アメリカ //////////////////////////////////////

〈陸軍〉

マーカス・グッドウィン 中佐。グリーンベレーのオブザーバー。

〈海軍〉

クリストファー・バード 元海軍少将。太平洋相互協力信頼醸成措置会議のアメリカ側代表団。佐伯昌明元海上幕僚長のカウンターパート。

〈海兵隊〉

ジョージ・オブライエン 中佐。海兵隊オブザーバー。

〈ネイビー・シールズ〉

カイル・コートニー 曹長。チーム1のベテラン。

エンリケ・リマ 大尉。部隊の指揮をとる。

//// 中国 //////////////////////////////////////

（中南海）

パンホンダ
潘宏大 中央弁公庁副主任。

（国内安全保衛局）

チンチュウファン
秦卓凡 二級警督（警部）。

スウエ シウエンロン
蘇躍 警視。許文龍が原因でウルムチ支局に左遷されたと思っていた。

（科学院武漢病毒研究所）

マリモン
馬麗夢 博士。主任研究員。

〈海軍〉

(総参謀部)

レン ユオアン
任思遠 少将。人民解放軍総参謀部作戦部特殊作戦局局長兼特殊戦司令官。四一四突撃隊を立ち上げた。

ホアントン
黄桐 大佐。局次長。

(`蛟竜突撃隊。)

シユイソントン
徐孫童 中佐。`蛟竜突撃隊、を指揮する。

ソンチン
宋勤 中佐。元少佐の民間人で、北京大学日本研究センターの研究員だった。任思遠海軍少将に請われ復帰した。

(南海艦隊)

トンシヤオニン
東曉寧 海軍大将 (上将)。南海艦隊司令官。

ホワイーチ
賀一智 海軍少将。艦隊参謀長

ワントン
万通 大佐。艦隊対潜参謀。

(東海艦隊)

タンドンミン
唐東明 大将 (上将)。東海艦隊司令官。

マ チンリン
馬慶林 大佐。東海艦隊参謀。アメリカのマサチューセッツ工科大学でオペレーションズ・リサーチを研究し、博士号を取った。その後、海軍から佐官待遇でのオファがあり、軍に入る。唐東明の秘蔵っ子。

(K J - 600 (空警 - 600))

ハオフエイ
浩菲 中佐。空警 - 600 のシステムを開発。電子工学の博士号を持つエンジニア。

イエファン
葉凡 少佐。空警 - 600 機長。搭乗員六人のうちの唯一の男性。

チンイー
秦怡 大尉。副操縦士。上海の名門工科大学、同済大学の浩菲の後輩。電子工学の修士号をもつ。

カオシュエビン
高学兵 中尉。機付き長。浩が関わるずっと前から機体開発に関わっていたベテランエンジニア。

(Y - 9 X 哨戒機)

チオンクイラン
鍾桂蘭 少佐。AESAレーダーの専門家で、哨戒機へのAESAレーダーの搭載を目指す女性。

(第164海軍陸戦兵旅団)

ヤオイエン
姚彦 少将。第164海軍陸戦兵旅団を率いる。

ワンヤントン
万仰東 大佐。旅団参謀長。

レイイエン
雷炎 大佐。旅団作戦参謀。中佐、兵站指揮官だったが、姚彦が大佐に任命して作戦参謀とした。兵士としては無能だが、作戦を立てさせると有能。

タイイーチイ
戴一智 中佐。旅団情報参謀。情報担当士官だったが、上官が重体になり旅団情報参謀に任命された。

ツァンガネユエン
張高遠 博士。人民解放軍の極秘研究機関 `S 機関、所属。`宅男、の風貌だが、数理データ・サイエンスの若き天才で、ある任務を命じられ寧波海軍飛行場に派遣された。

〈台湾〉

ライシヤオチセオ ロンユン
賴筱喬 サクラ連隊を率いて戦死した頼龍雲陸軍中將の一人娘。台北で新規オープンした飲茶屋の店主。司馬光が `チャオ、と呼び、店の開店を支援している。

ワンチーハオ
王志豪 退役海軍中將。海兵隊の元司令官で、未だに強い影響力をもつ。王文雄の遠縁。

ワンウェンション
王文雄 司馬の知り合いで、司馬は `フミオ、と呼ぶ。京都大学法学部、大学院に進み、国民党の党職員になった。今は、台日親善協会の幹部候補生兼党の対外宣伝部次長。

〈陸軍〉

〈陸軍第 601 航空旅団〉

フーシヤンジェン
傅祥任 少将。旅団長。

ファンチェンダアン
馮陳旦 中佐。作戦参謀。

〈龍城部隊〉

ピンロンイ
平龍義 少佐。第 1 中隊長。

ランチーリン
藍志玲 大尉。女性のグラビア・アイドル。第 1 中隊ナンバー 3 の乗り手。コールサイン：マリリン。

ファンイーチェン
黃益全 少尉。藍志玲大尉の前席射撃手。既婚者のベテラン。

〈フロッグマン部隊〉

ホーイージュン
何一中 大尉。フロッグマン部隊を指揮する。

〈海軍〉

リーチーホケン
李志強 大將。

ツァイズン
蔡尊 中佐。

（海龍、）

イエンシエンハオ
顏昇豪 大佐。海龍、艦長。

チュフイ
朱蕙 中佐。海龍、副長。以前は司令部勤務で燻っていたが、切れ者の女性。

（台湾軍海兵隊）

フロッグマン
（両棲偵搜大隊）

ユエウエレン
岳威倫 中士（軍曹）。狙撃兵。コードネーム：ドラード。パイロット救出作戦中に解放軍と交戦し、死亡。

ルードンファ
呂東華 上等兵。狙撃兵。

〔第99旅団〕

チェンヂーウエイ
陳智偉 大佐。台湾軍海兵隊第99旅団の一個大隊を指揮する。

ホァンジュンナン
黃俊男 中佐。作戦参謀。大隊副隊長でもある。

ウージンファー
呉金福 少佐。情報参謀。

ヤンヂーミン
楊志明 二等兵。美大を休学して軍に入った。

〈空軍〉

リーイェン
李彦 少将。第5戦術戦闘航空団を指揮する。

リウジョンホン
劉建宏 中佐。第17飛行中隊を率いる。

//////シンガポール R T C N

〈インターポール・反テロ調整室〉

シウエンロン
許文龍 警視正。R T C N代表統括官。

メアリー・キスリング R T C Nの次長。F B Iから派遣された黒人女性。

しばたゆきお
柴田幸男 警視正。警察庁から派遣されている。

パクボムホ
朴机浩 警視。韓国警察から派遣されている。

//////イギリス

〈英国対外秘密情報部（M I 6）〉

マリア・ジョンソン M I 6極東統括官。大君主。オーバーロード

東シナ海開戦6 イージスの盾

プロローグ

中華民國・国防部長（国防相）の谷進強^{クイジンチヤン}は、とらえどころのない男として知られていた。前任の国家安全局長時代は、黒子^{クウゴ}に徹してメディアの前に出ることはほとんど無かった。

父親も政治家。本人は軍隊時代のエリート生活を中佐で捨て、地方政治に身を転じて、こつこつとキャリアを重ねてきた。

お世辞にも、ハンサムではない。いつも不機嫌そうな表情をしている。人前で笑うことはほとんどなく、氷^{アイス}の男^{アイスマン}や、岩^{ザ・ロック}の男^{ザ・ロック}と陰口をたたかれている。本人は、アイスマンよりザ・ロックと呼ばれることを好んだ。

中央政界に身を転じてから、この十年、総統の椅子を狙っていると囁かれてきたが、本人は否定も肯定もしなかった。

軍隊時代の経歴には謎が多い。二度、米留学を経験したらしく、その間に、アメリカでの人脈を築いたと噂されるが、本人は、海兵隊にいたという以上のことを喋ったことはない。取材に動いたジャーナリストは、海兵隊時代の同期を片っ端から当たってみたが、口を開いてくれた人間は一人もいなかった。そのことから、情報畑の人間であつたことは明らかだろうと推察された。

記者発表はだいたい部下任せ。部隊の視察に出

でも原稿を棒読みするばかりで、兵士の輪の中に入り、肩を組んで笑顔を振りまくようなタイプでは無かった。

だから、その日の朝、つまり、解放軍が東沙島を襲撃して奇襲上陸してから八日目の早朝、基隆海軍基地で記者会見に挑んだ時、記者連中は、まずその唐突さに驚いたし、ぼさぼさの髪で、疲れ切った表情にも驚かされた。そして、珍しく、その手元に原稿はなかった。

詰めかけた記者たちは、彼の肉声の穏やかさに驚き、滅多に感情を表に出さないこの人物が、徐々に感情に押し流され、苦悩し、時に嗚咽するかのように言葉に詰まる姿に驚いた。その、あまりにも人間らしい振る舞いに皆が心を突き動かされたのだ。

彼はまず、陸軍の人寄せパンダとして国民に知られているグラビア・アイドルに関して話し始め

た。それに先立ち、軍は、二枚の写真を公表していた。

一枚は、担架の側に寄り添い、オスプレイの後部ハッチから乗り込もうとする一人の兵士、二枚目は、基隆基地に降り立った後、出迎えた谷進強に敬礼する姿の写真だった。

一枚目は、正直誰か全くわからなかった。顔は迷彩ドーランを塗り、飛行服を着ていること以外、身元がわかるようなものはない。ただ、全体的なシルエットから、なんとなく女性だろうと見分けられる程度だ。だが二枚目は、そのドーランを落とした素顔で、それは陸軍のマスコットとして知られている藍志玲大尉だった。

谷進強は、思い詰めたような表情で語り始めた。その視線は宙を泳ぎ、心ここにあらずだった。

——陸軍のアイドル、藍志玲大尉に関し

て、国民の間にある誤解を解く日が来た。

彼女のことを、あれはただのグラビア・アイドルで、大尉の階級は偽りだし、戦闘ヘリコプターのパイロットだというのも作られた虚像に過ぎない、あの軍服を着たアイドルは、ネジ一本回せないという噂話が世間に出回っている。軍として、それを積極的に否定したことはない。彼女の安全のために、その手の邪推や噂は放置されてきた。

事実として、ここに明らかにするが、彼女は疑いよう無く立派な陸軍大尉であり、AH-64E ッアパッチ・ガーディアン[®] 戦闘ヘリコプターの優秀なパイロットだ。その技量は、同期の中でもぬきんでている。だからこそ、この作戦が持ち上がった時、彼女は当然のごとく志願し、部隊は、その優秀さのみで選抜し、彼女に、極めて困難

な任務を命じることとなった。

我が軍、陸軍と海兵隊は、とある無人島で、友邦国の部隊とともに、防衛任務に当たっていた。そこへ上陸して来た敵は、こちらの数倍あり、味方歩兵だけでは、半日と持ち堪えることはできなかったらう。

われわれはそこに二機のガーディアン戦闘ヘリを派遣した。彼女らは、補給を繰り返しつつ、味方を支援し、幾度となく味方部隊の窮地を救った。しかし、島に持ち込めた武器弾薬は僅かで、昨夜、残った最後の武装で敵の背後を衝くべく出撃した。敵は攻勢を仕掛け、味方は押されていた。敵の退路を断ち、その攻撃の意図を挫くべく出撃したガーディアンヘリだったが、攻撃直後、地上からのミサイル攻撃を食らい、藍大尉が乗った戦闘ヘリは、敵の制圧エリ

ア内に不時着を余儀なくされた。

わが歩兵部隊は、圧倒的な数的劣勢下にあったが、友邦国の部隊とともに、直ちに行動を起こし、敵の前線に斬り込み、突破し、二人のパイロットの救出を急いだ。だが、前席射撃手の黄益全少尉は負傷し、二人は、迅速な移動ができなかった。

この時、幸運にも、二名の海兵隊狙撃手が、敵の制圧圏内において密かに作戦行動中であつた。それまでもこの二名は、幾度となく味方を救つていた。二人は直ちにパイロットとの接触を急いだ……。

だが、敵はすぐそばまで迫り、彼女らは包囲されつつあり、脱出路は限られた……。

(しばしの重い沈黙を経て――)

……他に、術は無かつたのだ！……。狙撃手であり、上官でもあつた岳威倫中士

は、その時、自分が置かれた状況を的確に理解していたはずだ……。彼は、まだ若い訓練中の部下を連れていた。負傷した黄益全少尉に肩を貸す部下の背囊に、彼は「妻に渡してくれ」と形見の品を突っ込むと、部下の背中を押し、自らは囷として、敵陣の中へと向かつて行つた。

彼は、自分の運命も、使命も理解していたことと思う。恐らく、海兵隊下士官なら、誰でも全員がそうしただろう行動に出たのだ。最初は狙撃銃で敵を牽制し、続いて手榴弾を投げて敵を圧迫し、最後は、突撃銃を撃ちまくつて殺到する敵兵士を引き付けた……。

先ほど、総統府から未亡人にお見舞いの言葉が伝えられた。二階級特進した岳少尉には、去年、二人目の子供が生まれたばかり……。

りだった。

私は、一人の元海兵隊員として、岳少尉の戦死に弔意を表す。二人のパイロットを救出するために、他にも、海兵隊員二名と、友邦国の兵士三名が犠牲になった。この中には、部隊を率いた士官も含まれている。

二人のパイロットは、こうして無事に脱出し、黄少尉はすでに治療を受けている。命に別状は無い。藍大尉は、健康診断と治療を受けた後、私と面会した。あちこちに酷い擦り傷と打撲はあるものに至って意気軒昂であり、速やかに戦場に復帰する許可を求めている。

岳少尉の亡骸は、すでに味方部隊によって収容された。われわれはまだ、その無人島に踏みとどまっている。

この戦争は過酷で、楽観できる要素など何処にもない。敵はあまりにも圧倒的な戦力を持ち、われわれは孤立している。われわれとともに戦ってくれる味方は僅かだ。だが、兵士諸君！そして国民の皆さん。われわれは意志の力で、敵の野望を打ち砕くことが出来る。

今日、戦場に散った兵士のために、どうか、しばし祈りを捧げて欲しい。彼らの魂に安らぎがもたらされ、その遺族に安寧の日々が訪れることを――。

記者は、皆俯うつむきがちで、しばらく誰も言葉を発しなかった。すすり泣きする女性記者もいた。やがて、誰かが「その形見の品とは？」と小声で聞いた。

「ああ……、それは、遺族のプライバシーだと思

う。いや、そうだな……。スケッチブックだった。小さなスケッチブックで、狙撃兵は、敵を待つ間、地形把握のために周囲を風景描写するから、絵が上手くなる。鉛筆画で、家族の横顔が描いてあった」

谷進強は、無言のまま次の質問を待ったが、皆がその衝撃に耐えているという事実を理解すると、「これが戦争の現実だ……」と呟いて、建物の中に消えて行った。

その数時間後開かれた日本の総理官邸、官房長官の午前の記者会見で、型通りの質問が記者から為された。「無人島とは、魚釣島であり、そこで自衛官が戦死したのか？」と。

官房長官は、涼しい顔で、「魚釣島に自衛官がいるという事実はなく、その事実がない以上、当然ながら、そこで自衛官が戦死したという事実はない。台湾での『無人島』発言が、どこを差すの

か当方は関知しない」と述べた。

不思議なことに、その発言に突っ込む記者はいなかった。それが、戦略的忍耐を繰り広げる日本の現実だった。

中国の東沙島奇襲占領に端を発した東シナ海の戦いは、八日目の朝を迎えていた。東沙島に立て籠もっていた台湾軍海兵隊は、自衛隊潜水艦によって無事脱出したが、台湾沖、尖閣諸島周辺では、数度に及ぶ大規模な空中戦が発生していた。中国側は、一〇〇〇機に及ぶ無人化した旧型戦闘機を繰り出して日台両軍を疲弊させた。日台側は、アメリカ空軍の助けも借りてこれを撃退。すると中国は、嘉手納基地と那覇空港へ通常弾頭による弾道弾攻撃を敢行。米側は、報復として解放軍が占領した東沙島にミサイル攻撃を行って警告した。そして解放軍は満を持して尖閣諸島、魚釣島へ

と上陸して来た。

戦略的忍耐をモットーとする日本側は、これを少数の特殊部隊と民間軍事会社で応戦。中国側は、巡航ミサイルによってこれら敵地上部隊の殲滅を目論んだが、日本はイージス護衛艦のミサイル弾庫を空にして応戦、これを全弾、叩き墜した。

魚釣島では、数度の陸戦を経て、その度に日本側も犠牲を払ってはいたが、戦死者の数では、解放军側が桁違いに多かった。

日台中国、それぞれ莫大な戦費と人的犠牲を払いつつ、小さな無人島の帰趨を巡って、戦線は膠着しつつあった。

第一章 ワンサイド・ゲーム

人民解放軍海軍で潜水艦狩りを任務とするY-9X哨戒機、そのコクピット直後左側の戦術航空士席に座る鍾桂蘭チオンクイラン海軍少佐は、窓のシャッターを少し上げ、明るさを取り戻した海岸線を見下ろしていた。とにかく、あの状況下でここまで無事に戻って来られたのは奇跡と言つて良かった。

コクピットでは、二人の正副パイロットが、しきりに残燃料を計算していた。もとより、この手の大型哨戒機には空中給油機能はない。いったん離陸すれば、一二時間は平気で飛べるのだ。それ以上の時間、空中給油して任務に就いたところで、乗員の体力と集中力が持たないから、基地に引き

返すしかない。

機体は、その長い時間を飛び続け、なお残燃料ぎりぎりまで帰投しようとしていた。燃料警告灯がピーピー鳴り始める。

エンジン四基の騒音のせいで、機内はそれなりにうるさく、耳栓とインターカムが必須だが、彼女の席までは、その警告音が確実に届いていた。

すでに三〇分前から、外側のエンジンは止まっている。今は内側二発だけで飛んでいた。

副操縦士が無線に囁り付いて、寧波ニンポ海軍基地に優先着陸の要請を繰り返していた。こんな時間まで踏みとどまるべきでは無かったが、どうしても



最後まで見届ける必要があった。そして、それが出来るのは、自分が開発した最新鋭のAESSAレーダーを装備したこの機体だけだという自信があった。何しろ、空軍の早期警戒管制指揮機は、艦隊の遙か後方、ほとんど陸地の上から前に出ようとしていないのだ。頼みの艦載型早期警戒機は、イージス艦の収束ビームを喰らい、今地上で大がかりな修理作業に入っていた。

普段より大きな衝撃で機体がズドン！と着陸する。こんな衝撃は、システムへの衝撃実験以来だった。後方の対潜ステーションで、女性兵士が小さな悲鳴を上げた。

機体は、そのまま誘導路へと進んだが、そこで燃料が尽きた。エンジンが咳き込む前に、パイロットはエンジンを停止させた。正しい判断だった。異常燃焼は、メンテの手間を増やすだけだ。

機内が静けさを取り戻すと、鍾少佐はシオルダ

ー・ハーネスを外して立ち上がり、通路へと出た。「良くやったわよ、みんな！パイロットもご苦労様です。整備にはしばらく時間が掛かるでしょうから、シャワーでも浴びて、一眠りして下さい」しばらく誘導路上で待つと、^レ猛士^レ装甲車と整備兵を乗せたミニ・バスが向かって来る。乗組員はミニ・バスに、鍾少佐は、データやパソコンを入れたブリーフケースを手に持つと、猛士の後部座席へと乗り込んだ。

奥まった格納庫へ向かうよう命じると、その中で、この戦争の帰趨を決することになるだろう、もう一機の飛行機が整備というか、大修理を受けているところだった。

背中に背負う巨大な円盤のカバーが外されている姿は痛々しかった。

ハンガーの中では、一〇メートル四方はありそうな巨大なテーブルの上に設計図が広げられ、メ

「カーから呼んだ応援の民間人技術者たちが作業に当たっていた。焼き切れた素子や電子回路を交換する作業だった。」

その艦載型早期警戒機KJ-600（空警-600）のデュアル・バンド・レーダーを開発した浩^{ハオ}菲^{フェイ}海軍中佐が、まるで女王のように堂々と振るまい、細々と指示を出していた。

「こてんぱんに殺^やられたんですって？」と浩から先に呼びかけた。

「ええ。先輩のこの機体がいてくれれば、もっと綺麗に、より多くの情報も得られたんですが。でも私の機体だけでも、それなりのことは見えました。たぶん、私の機体以上のデータを収集できた軍艦や軍用機はいないはずですよ。われわれ、ちょっと危険なくらい敵に接近していましたから」「どうして？ 私の機体が酷い目に遭ったばかりなのに、どうしてそんなに敵に近づいたのよ？」

「それは、単純な理由で、そこに敵はいないと思っていたからです。レーダーに映っているのは、ただの大型巡視船のほずでした。ところが、こちらのミサイルが撃たれた瞬間、イージス・レーダーに火が入って、すぐそばにるのが、イージス艦で、自分たちは、その艦対空ミサイルの射程圏内を飛んでいることに気付いた。でも、一か八か、敵が撃つてこないことに賭けて、その場に居続きました。今思うと、馬鹿なことをした後悔しています。クルーを危険に晒し、燃料不足でここまですり着けないところでした」

「聞いている？ 東海艦隊の馬^マ参^サ謀^{マウ}が話を聞きたいからとここに向かっているわ」

「はい。機上で聞きました。それがなければ燃料補給にもっと手前の飛行場に降りるつもりでしたから。でもわれわれに話を聞いたところで……」「頼りにされるのは、われわれがそれだけの實力

を持つているからよ」

鍾少佐は、テーブルの上のバスケットに視線をくれた。食い物が山積みされていた。

「美味しそうですね。カレーのナンみたいだけども……」

「どうぞ食べて。ソーセージやベーコンを巻いただけのピザパンよ。熱いコーヒーもあるわよ？」

「いえ。コーヒーは飲み過ぎなので、普通のお茶で結構です。この機体、修理はあとどのくらい掛かりそうですか？」

「そうですね。なんとか今夜中には終わらせたいわ」

「そんなに早く！——」

「ええ。一時間でも早く復帰させて、敵の度肝を抜いてやるわ。解放軍には、もしかして二機目のデュアル・バンド・レーダー搭載機がいたのかとびつくりさせてやる」

鍾少佐はテーブルの下にブリーフケースを置く

と、パイプ椅子に座ってそのピザパンを食べ始めた。浩が、電気ポットから熱いお茶を紙コップに注いでくれた。

「見ます？」

「いえ。貴方の方が専門でしょう？」

「まさか。私はただAESAレーダーの専門であって、それも見つけるのは艦船や潜望鏡です。飛び道具を見つけるのは先輩のご専門でしょう」

「馬大佐がいらした時のために、驚きは取っておくわ」

「でも、メーカーのエンジニアが多いですね」

「ここだけの話よ。実は、あちこちの基地や駐屯地で、中東呼吸器症候群のクラスターが発生しているらしいのよ。それで、まず人の移動を最小にして、蔓延を防いでいる」

「まさか？ だって、テロリストの上陸は阻止出来たんでしょう？ その感染拡大も、上海周辺に

限定されているんじゃないかなかったですか？」

「ここ寧波は上海のすぐ南だし、噂だけど、どうやったのか、テロリストは軍の周辺に集中的にウイルスをばらまくことに成功したらしいのよ。何しろ、最高司令部の八一大楼（パイラックロウ）が、それでロックダウンされたらしいから。もっとも、その前に軍首脳部は、あらかた秘密の地下軍事司令部に退避していたはずだけど。この基地の中でも、行動出来るエリアと、接触して良い人間を峻別するよう命令が出ているわ。この戦時下でそんなことを守れるとは思えないけれど……」

それはそれとして、このピザパンは異様に美味しい……。半日にも及ぶ警戒時間を少しでも楽しめるよう、機内に持ち込む軽食には皆で意見を出し合うことになっているが、これはぜひ検討する価値がありそうだと鍾は思った。

聴き馴れないヘリコプターのローター音が聞こ

えて来ると、エプロンに直接降りてきた。海軍のハルビンZ-20J汎用ヘリだった。西側では、ブラックホーク・ヘリのデッドコピー扱いされているが、ローターが一枚多い。他は、まあデザインに関してはコピー商品と言われても仕方無いほどよく似ていた。

東海艦隊参謀の馬慶林（マチンリン）大佐がキャビンから降りて向かって来る。米留組のエリートだった。それもマサチューセッツ工科大で博士号を取って、一度民間企業に就職してから軍に入った変わり者だった。

馬大佐は、うっすらと無精髭を生やしていた。ハンガーに入つて来ると、まず基地の兵士がN95マスクを手渡した。大佐はそれを着用すると、腰に両手を宛（あて）が、足を開いて一瞬、立ち止まった。そしてフー！ と声を出してため息を漏らした。

「やれやれだ。ここは間違いない地上だな。揺れ

★ご覧いただいた立ち読み用書籍はPDF形式で、作成されています。この続きは書店にてお求めの上、お楽しみください。